





| | | | | |
|------|------------|--|--|--|
| 分類番号 | | | | |
| 保存期限 | 1・3・5・10・永 | | | |

様式第5号 (第5条関係)

| | | | |
|---|---|---|--|
| 議長 | 事務局長 | 係長 | 書記 |
|  |  |  |  |

平成30年4月5日

矢巾町議会議長 廣田 光



会派名 町民の会

代表者名 高橋安子



平成29年度政務活動費収支報告書

矢巾町議会議政務活動費の交付に関する条例第9条第1項(第2項)の規定により、次のとおり平成29年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 576,000 円

2 支出

| 項目 | 金額(円) | 主たる支出の内容 |
|-------|---------|----------|
| 調査研究費 | 435,260 | |
| 研修費 | | |
| 会議費 | | |
| 資料作成費 | | |
| 資料購入費 | | |
| 広報費 | | |
| 事務費 | | |
| 合計 | | |

3 残額

140,740 円

備考 政務活動費支出明細書、調査研究等実施報告書、領収書等の写しを添付すること。

様式第8号 (第6条関係)

矢巾町議会議長 廣田 光男

| | | | | |
|------|------|----|-----|-------|
| 分類番号 | | | | |
| 第何期 | 1 | 3 | 5 | 10 |
| 議長 | 事務局長 | 係長 | 書記 | |
| 様 | | | 会派名 | 町民の会 |
| | | | 代表者 | 高橋 安子 |

平成 29 年 8 月 23 日

報告者氏名 廣田 清実



調査研究実施報告書

| | |
|----------------------|--|
| 実施年月日 | 平成 29 年 7 月 11 日 (火) ~ 平成 29 年 7 月 13 日 (木) |
| 参加者名 (9 人) | 町民の会 : 廣田清実、水本淳一、高橋安子 矢巾明進会 : 長谷川和男、村松信一、齊藤正範 やまゆり会 : 藤原由巳、藤原義一、高橋七郎 |
| 目 的 | ① 葉っぱビジネス (彩事業) について (株式会社いろどり・上勝町) 里山の葉っぱや花を収穫し、料理の「つま」としての出荷する「葉っぱビジネス」高齢者がITを使いこなし、町に新しい産業を築き成功を納めている「いろどり事業」を視察する。 ② 健康パスポートを活用した健康づくりについて (香南市) 高知県が発行している「高知家健康パスポート」を活用し、楽しみながら健康づくりに取り組む「こうなん健康チャレンジポイント事業」を視察する。 |
| 行 先 | 徳島県上勝町 高知県香南市 |
| 対 応 者 又は 主 催 者 | 矢巾町政策研究会「やまゆり会」 高 橋 七 郎 |
| 概 要 及 び 所 見 | 別紙のとおり |
| 経 費 | 250,200円 (内訳は別紙のとおり) |

調査研究等経費内訳

(会派名 = 町民の会)

| 調査研究費 ・ 研修費 (いずれかを○で囲む) | | | | | |
|---|-------------------|---|----------------|-------------|--------------|
| 交通費 | 交通機関名 | 経路 | 計算 | 計 | 備考 |
| | 鉄道 (JR) | 矢幅駅～東京駅 (往復) | 79,250 円 × 3 人 | 237,750 円 | 整理番号 1-1内 |
| | 鉄道 (JR) | 徳島駅～阿波池田駅 ～高知駅 | | | |
| | モノレール | 浜松町～羽田 (往復) | | | |
| | タクシー | ジャンボタクシー | | | |
| | タクシー | ジャンボタクシー | | | |
| | AIR | 羽田空港～徳島空港 (往路) 高知空港～羽田空港 (復路) (往復、宿泊料込) | | | |
| 鉄道 (JR) | 徳島駅～阿波池田駅 特急料金 | 650 円 × 3 人 | | | |
| 鉄道 (土佐) | 後免駅～のいち駅 (往復) | 500 円 × 3 人 | 1,500 円 | 整理番号 1-4 | |
| | | | | | |
| 宿泊料 | 宿泊日 | 宿泊先 | 計算 | 計 | 備考 |
| | 7/1 1 | 徳島東急 REI ホテル | 3 人 | 円 | 整理番号 1-1内 |
| | 7/1 2 | 高知パレスホテル | 3 人 | 円 | 整理番号 1-1内 |
| | | | | | |
| 資料代 | | 円 × 人 = 円 | | | |
| 視察代 | | 3,000 円 × 3 人 = 9,000 円 | | | 整理番号 1-2 |

| | |
|-----|-----------|
| 合 計 | 250,200 円 |
|-----|-----------|

備考 領収書等の写しを添付すること。

(任意様式)

| | |
|------|--------|
| 項目区分 | 調査研究費 |
| 整理番号 | 番号 1-1 |

領収書その他の書類を添付する



領 収 証

町民の会 殿

No. 035791

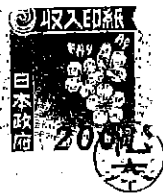
平成 29年 7月 5日

¥ 237,750 -

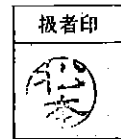
現金・振込・小切手

| 内 容 | 種 目 | 旅行年月日 | 行先(又は品名) | 内 訳 |
|-----|------|-------------------|----------|---------------|
| | 旅行代金 | H29.7/11~ 7/13 | 四国 | 矢中町議会会派合同視察研修 |

上記金額正に領収致しました。



〒020-0124 岩手県盛岡市厨川
 株式会社 岩手県北観光
 代表取締役社長 三上金昭
 TEL 019-641-8811 FAX 019-641-8844



*金額訂正又は振者印なきものは無効

内訳

- 鉄道：矢幅駅～東京駅 (往復3名分) 90,420円
- 鉄道：徳島駅～阿波池田駅～高知駅 (往路3名分) 14,130円
- モノレール：浜松町～羽田空港 (往復3名分) 2,940円
- ジャンボタクシー：7/11 徳島空港～上勝町～徳島駅 (3名分) 9,720円
- ジャンボタクシー：7/13 高知市内～高知空港 (3名分) 8,640円
- AIR&ホテルパック：羽田空港～(往路徳島/復路高知) 2泊 (3名分) 111,900円
- 宿泊：7/11 徳島東急REIホテル 宿泊：7/12 高知パレスホテル

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通機関の場合、利用区間が記入されているか。

支払年月日 平成 29年 7月 5日

他会派との按分 (なし) ・ あり)

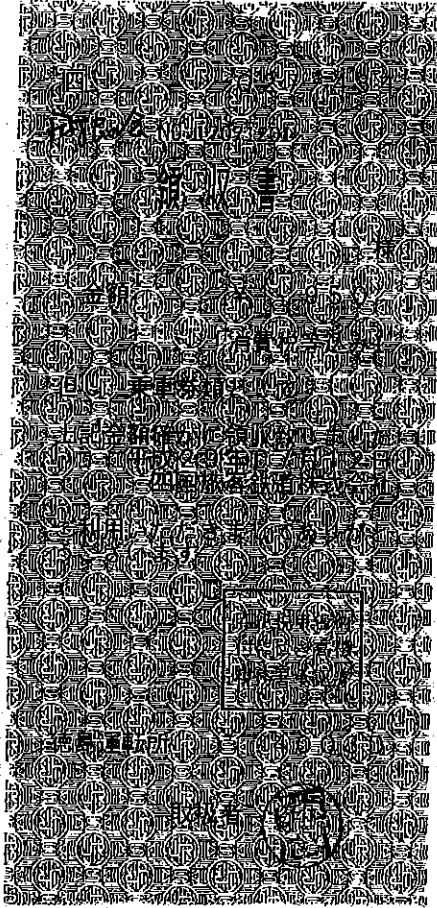
(按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載)

| | | |
|-----|---|-----------|
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 合 計 | 円 | 領収書の金額と一致 |

※ 1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

(任意様式)

| | |
|----------------|--------|
| 項目区分 | 調査研究費 |
| 整理番号 | 番号 1-3 |
| 領収書その他の書類を添付する | |



JR 徳島駅～阿波池田駅 特急料金 3名分

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通機関の場合、利用区間が記入されているか。

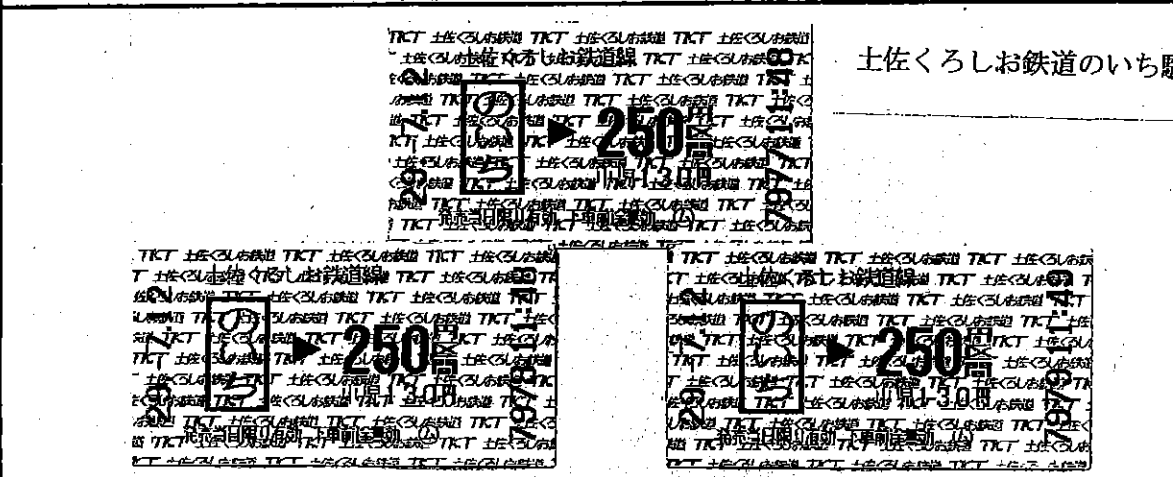
| | | |
|---|---------------|-----------|
| 支払年月日 | 平成 29年 7月 12日 | |
| 他会派との按分 (<input checked="" type="checkbox"/> なし ・ あり) | | |
| (按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載) | | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 合計 | 円 | 領収書の金額と一致 |

※ 1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

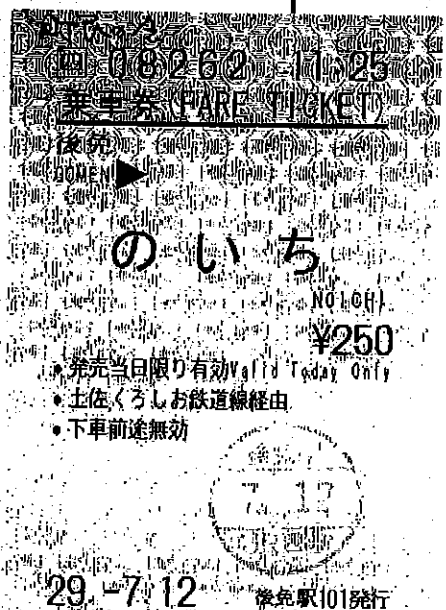
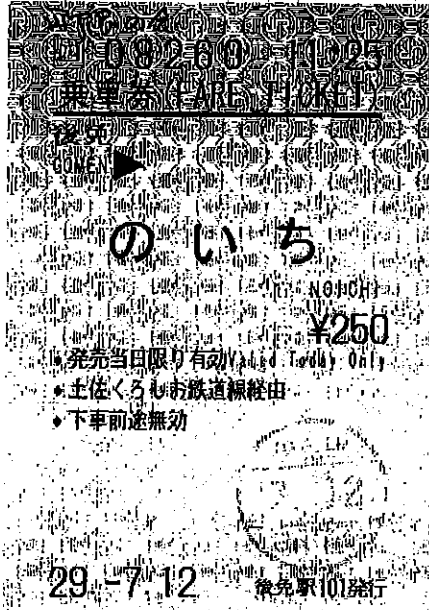
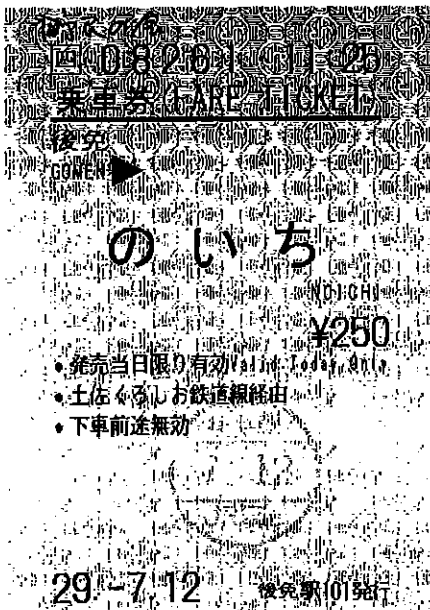
(任意様式)

| | |
|------|--------|
| 項目区分 | 調査研究費 |
| 整理番号 | 番号 1-4 |

領収書その他の書類を添付する



土佐くろしお鉄道のいち駅～後免駅復路3名



土佐くろしお鉄道後免駅～のいち駅往路3名分

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通機関の場合、利用区間が記入されているか。

| | | |
|---|--------------|-----------|
| 支払年月日 | 平成 29年 7月12日 | |
| 他会派との按分 (<input type="checkbox"/> なし · <input type="checkbox"/> あり) | | |
| (按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載) | | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 合計 | 円 | 領収書の金額と一致 |

※ 1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

徳島県上勝町視察報告書

平成29年8月23日

町民の会

1 実施日時

平成29年7月11日(火)

2 目的

- ・ 高齢化が進む地域で活躍が期待される仕事の実態把握
- ・ 過疎化が進む地域での地域ビジネス視察
- ・ 地域資源活用による新ビジネスの視察

3 視察先

徳島県上勝町 株式会社いろどり及び生産農家西蔭氏宅

4 概要

上勝町は、徳島市内から約1時間程の山間地で、高齢化率51.49%の人口1,600人、世帯数800世帯ほどの町である。

かつて温州ミカンが山の斜面に植栽されていたが、1982年の異常寒波でほとんどの木が枯死した。

当時農協の職員であった横石知二は、日本料理を美しく彩る葉っぱに目を付け、地域にある木の葉っぱを売ることを見案した。

商品が軽量であり、女性や高齢者にも容易に取り組めることから1986年「葉っぱビジネス」がスタートした。

しかし、当初はなかなか地域住民に受け入れてもらえず苦勞の連続であったが、女性同士の競争心を煽ることや、名前呼び合うなど工夫しながら少しずつ地域に溶け込み、現在は「株式会社いろどり」として年商2億6千万円で、一人当たり1千万円かせぐ高齢者もある。

実際に訪問した葉っぱ農家の西蔭氏は、間もなく80歳という高齢であるが、まだまだ現役、仕事は楽しい、100歳までは現役と話し、毎朝パソコンやタブレットを自由自在に使い、商品販売管理をしている様子を説明してくれた。

現在は、葉っぱの種類は320種類ほどで1年を通して全国に出荷。最近では、海外にも出荷しているとのこと。

また、2010年からインターンシップ事業を行い、600名以上を受け入れ、そのうち20名が町内に移り住んでいる。

5 所見

なによりも、高齢者が生き生きと仕事に取り組む実際の年齢より若々しいのが印象的。

このように生きがいを見つけたことから、健康にも自信を持ち、老人ホームの利用者が無くなったとのこと。

本町において、高齢者が取り組める仕事を模索しながら、健康寿命の促進を図っていくことを重要課題に取り組む必要性を感じた。

年齢に関係なく生涯自身を持って出来る仕事を持つことにより、認知症の予防にもつながるのではないかとと思われる。

調査研究実施報告書

平成29年 8月23日

健康パスポートを活用した健康づくりについて

視察日時 7月12日(水)13:20~15:20

視察場所 高知県香南市役所

<香南市概要>

香南市は県都高知市の東部約20~30Kmに位置して、平成18年3月1日に赤岡町、香我美町、野市町、夜須町、吉川村、4町1村が合併して成立、面積126,48Km²、人口33,627人(男性16,226人、女性17,401人、29年4月31日現在)、議員定数20人、市の南部地域は、太平洋に面する自然豊かな景観の沿岸部と肥よくな平野部が東西に広がり、中部地域は低山が連なる中に里山環境が広がっています。また、北部地域は標高300~600mの四国山地の一部を構成しており、これらの山々を原流とする物部川など、水と緑が豊かな地域です。

気候は、南海型の気候区分に属し、温暖な気候に加え年間降水量は、県内でも少ない地域となっています、農産物ではニラ生産量日本一になっている。

●健康パスポートを活用した健康づくりについて

○高知県の取り組み

(高知県人口714,615人、男性336,467人、女性378,148人、29年7月1日現在)

高知県では、「県民の誰でも住み慣れた地域で、安心して暮らすことのできる日本一の健康長寿県」の実現を目指して、県民の皆様が健康づくりに取り組むきっかけにさせていただきたいと、今年度から新たに「ヘルシー・高知家・プロジェクト」を開始しました。

その具体的な取組として、この9月1日から、楽しみながら日々の健康づくりに取り組めるアイテムである、「高知家健康パスポート」は20歳以上の高知県民に発行をスタートします。

この「高知家健康パスポート」は特定健診の受診や、健康イベントへの参加などを通じて集めたポイントで取得することができ、パスポートを参加施設に提示する事で、割引やプレゼントなどの特典が受けられます。

県がプラットフォームをつくり、県内保険者と一緒に取り組む健康インセンティブ事業は全国初となり、県内の健康パスポート特典付与施設約210施設(スーパーマーケット、飲食店、スポーツジム、スポーツショップ、温泉)で、健康や運動、ヘルシーな食事といった、健康につながる行動をとってシールを収集しながら、いつもの生活の中で楽しく健康になっていただきます。

パスポートの中には、日々の健康管理のできるページや健康に役立つ情報も掲載しています。

○香南市の取り組み

高知家健康パスポートを活用し、楽しみながら健康づくりに取り組む「こうなん健康チャレンジポイント事業」について、市民は、虚血性心疾患や脳血管疾患等の生活習慣病の

割合が高く、肥満や運動不足、飲酒等の生活習慣の改善が重要で特定健診受診者男性の3人に1人はメタボリックシンドローム該当者のため、その改善策として健康パスポートを利用して、健康チャレンジポイントを集めることで、運動の継続や食事や禁煙などの生活習慣の改善、健診の受診を推進し市民の健康意識の向上と健康行動の促進を図るため、条例で制定している。

<事業内容>

対象者 高知家パスポート取得者

ポイント付与内容

- 1) 健康いきいきチャレンジ：5ポイント
 - ・運動（1回30分、週2回以上）
 - ・家庭で血圧測定（1日2回、週5日以上）
 - ・朝食（主食・主菜・副菜、週5日以上）
- 2) 健康いきいきビッグチャレンジ：10ポイント

生活習慣の改善目標

- ・体重または腹囲の減少
- ・禁煙（全く吸わない）
- ・休肝日（週2回以上飲まない）
- ・間食（間食週5日以上しない）

特 典

10ポイントで（香南市ギフトカタログ）で使用できる500円、クーポン券交換（上限40ポイント）

予算内訳

- ・ポイント事業委託料（観光協会）：1,100千円
- ・クーポン券印刷代等需要費：40千円

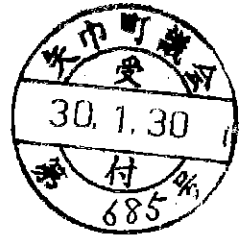
<所 見>

今回の研修で、まず県が率先して「高知県の健康パスポート事業」を始めたことに強く感銘した。「高知家」という題名も中々良い。人と人との繋がりや温かさを感じる言葉である。岩手県は平成28年4月より全国で共通展開されている「子育て支援パスポート事業」に参加しているそうだが、高知県のような支援も望みたいところである。

矢巾町でも生活習慣予防のための長期フォロープログラムで「ポイント制を用いた健康づくり」等を実施し成果を上げていると思うが、更に対象者、受講メニュー等の範囲を広めて町民の健康サポートに力をいれて頂きたい。

しかし、ポイント制による受診率の向上については、ポイントに興味を持たない人も多くいるようで、それほど大きな変化があると思えないところもある。他の方法による支援も考慮しながら更なる受診率の向上を図り、健康の町矢巾町をめざして頂きたい。またこの事業は、国民健康保険の保険者努力支援制度に健康づくりのインセンティブ事業として含まれており、当保険の交付金の割り当てが増える可能性があるという事なので、そちらの方についても期待する。

平成30年 1 月 30日



矢巾町議会議長 廣田 光 男 様

会派名 町民の会
 代表者名 高橋 安子
 報告者氏名 高橋 安子

調査研究等実施報告書

| | |
|------------------|---|
| 実施年月日 | 平成30年 1月 22日 (月) ~ 30年1月24日 (水) |
| 参加者名 (7人) | 町民の会 : 高橋安子、廣田清実、水本淳一 矢巾明進会 : 長谷川和男、村松信一 やまゆり会 : 藤原義一 公明党 : 米倉清志 |
| 目的 | ①福岡ブランド「ラー麦」の取り組みについて (福岡県) (1月23日 (火) 午前9時30分~) ラーメンの魅力をより高めるため、小麦の新品種を開発し、それを使用した商品開発を実現させ、新たな福岡ブランドの確立を目指している。 ②エネルギーの地産地消の取り組みについて (福岡県みやま市) (1月23日 (火) 午後2時から) 自治体による低圧電力売買を目的とした日本初の事業会社を設立し、地産資源を活かしたまちづくりと分散型エネルギーインフラの確保による災害に強いまちづくりを推進している。 |
| 行先 | ①福岡県 (県庁水田農業振興課) ②福岡県みやま市 (エネルギー政策課) |
| 対応者 又は 主催者 | 矢巾明進会 村松 信 一 |
| 概要及び 所見 | 別紙のとおり |
| 経費 | 185,060円 (内訳は別紙のとおり) |

福岡ブランド「ラー麦」の取り組み視察報告書

報告者 町民の会 高橋 安子

1 概要

福岡県は、北海道に次ぐ全国第2位の小麦生産県であり、全国的にも有名なラーメン処であるにもかかわらず、原料を外国産小麦に依存している現状であった。福岡県の小麦は主にうどん用として使用されていた。

そのことから、「福岡で作った小麦でラーメンを！」と、ラーメン用小麦品種開発に取り組みむとともに、福岡県ラーメン用小麦品種開発協議会を平成18年8月に発足した。

協議会のメンバーは、農業総合試験場、福岡製粉倶楽部、米麦品質改善協会、JA全農ふくれん、県庁（オブザーバー）。

その結果、平成20年3月、小麦「ちくしW2号」を

- ① 麺にした時の色合いが良い
- ② ラーメンの歯切れが良く、ゆで伸びしにくく、食味が優れる
- ③ 早生、多収で栽培性が優れ、穂発芽しにくい

等のことから、平成20年3月品種登録出願、22年8月に登録された。

その後、名称を一般公募し、「ラーメン用小麦」略して「ラー麦」の愛称で呼ばれ、更に21年には「ラー麦」と「麺」という漢字ににせてロゴデザインが作られた。

更に、ラー麦ラーメンの利用・消費を促進するための普及推進等を迅速・適格に実施するため、「福岡県ラー麦普及推進協議会」を製粉会社、JA全農ふくれん、県、試験場、関係機関で立ち上げ、マーケティング活動等を通して普及、拡大を目指している。

今後は、更に海外での利用やラー麦を使った新商品開発の取組を実施することである。

2 所見

- ラー麦の認知度については、新商品開発等の支援及び新商品PRをしているとのことだが、販売店舗が少ない。例えば、タクシードライバーや店舗等で「ラー麦」のことを聞いても、分らない人が多く。お土産店においても、博多ラーメンやとんこつラーメンの販売はあるが「ラー麦」を使用したお土産の取り扱い店舗が少ない。更にPR強化の必要と感じた。
- 福岡県は、温暖な気候に恵まれ、いちご「あまおう」やいちじく「とよみつひめ」それに八女茶、柿など多くの特産物があるが、それに甘んじることなく更に品種改良等を進めブランド化に努めており、見習うことが多い。
- 本町においても、水田に小麦、大豆等を栽培する農家が多いが、これらが収穫後どのように活用されているのか分かっている人は少ないと思う。
例えば、本町で収穫した小麦が何の材料として活用され、どのような

商品で販売されているか、もう少し興味を持って検証し、価値をつけていく必要があると思う。

- 意識して小麦や大豆を生産し、販売商品の目標を持った作付けをすることで、ブランド化の夢を持つことも出来、活気のある農業が出来るのではないか。

視察日時

平成 30 年 1 月 23 日 (火) 14:00~15:30

みやま市の概要

福岡県の南部に位置し、一部は熊本県にも接する。面積は 105 km²。
2007 年 1 月に瀬高町、山川町、高田町の三つの町が合併。
全体としては平坦な田園地帯。農業の町で、中でも施設園芸で果樹栽培が盛ん。
西日本 1 の生産という事で施設園芸ではセロリ、博多ナス、みかんが代表的な特産品。
合併当時は 4.4 万人位の人口が年々減少し、3.8 万人を切る。毎年約 500 名ずつ人口が減少している。(約 300 人が自然減で、約 200 人が社会減。高齢化率 35%強。)
西側が有明海に面し、全体的に温暖な気候で日照時間は年間 1000 時間を超え全国平均より約 1 割高い。家庭用の太陽光の普及率も 1 割を超え、全国平均の約 2 倍の設置率である

電力事業の取り組み

みやま市は日照時間が多く太陽光の設置に適していて、その地の利を生かした取り組みを先ずやろうというのが電力事業のきっかけである。

地域新電力会社を設立した趣旨は、「人口減少問題をいかに食い止めるか」、「少子高齢化社会へいかに対応するか」、この課題の克服である。

この課題に対する取り組みの大きなものは三つある。

- 一、人口減少、少子高齢化の課題に対する取り組み。
- 二、みやま市では毎年約 40 億円の電気代を九州電力等に支払っているが、仮にその半分でも留めると地域の中に 20 億円留まることになるので、地域内経済循環により新しい雇用を生み出し、地域の中で二次、三次の波及効果を上げるための取り組み。
- 三、震災など万が一の事態に備え、近い所で電源を作り「分散型エネルギーを確保する」ことによる安心安全の町づくりの取り組み。

計画準備の経緯

① 市有地の活用

元々みやま市は企業誘致のため農地の区画整理事業で約 10ha ほどの土地を用意しが、土地の中央に非常に大きな鉄塔を有した特別高圧線が土地を分断するように通っていて、建物を建てられなかったり、建てた場合でも高さ制限等があり約 15 年の間塩づけになっていた。しかし、電気の「固定価格買い取り制度」が始まる事から、土地の有効活用に繋がるということでメガソーラー施設の誘致の取り組みを始めた。

② 地域経済の還流への取り組みの始まり

地域内に出来るだけお金を落とす仕組みを作るべきだという事でメガソーラー施設の会社を作ったらいいのではないかという事で開始。

③市内商工業者への呼びかけによる特別目的会社の設立

市民ファンドの地域電力会社を作ろうという事で市内の商工業者にも呼びかけ、約40社からの出資により、みやまエネルギー開発機構株式会社が設立した。

④市長とみやまエネルギー社長との出会い

みやまエネルギーの磯部社長がパナソニックに務めていた頃にヨーロッパ各地を回った際、ヨーロッパの電力自由化が日本より10年程早く進んでいることを知り、いずれ日本でも発電会社とは別に電気を売り買いする会社が出来たろう、自治体も自ら電気を売買出来るようになるだろうという事を今から5年程前になるが市長と話をし、自治体も関わってそういう事業をやりたいと思ったのがこの取り組みの始まりである。

また、みやま市は「バイオマス産業都市」と言い、家庭の生ごみやし尿をメタン発酵させて発電するバイオマス施設を今建設中で今年秋に完成の予定。一般から出る生ごみと燃えるゴミにきちんと分別してもらうという取り組み（隣の大木町さんが10年ほど前からやっている）をやるため、昨年から200回ほど行政区で分別の説明会を開催。人口4万人規模での取り組みの事例は無く新しい取り組みのきっかけになった。また、し尿処理場やゴミ焼却施設などの老朽化が進んでいるため、隣の柳川市と一緒にゴミ焼却施設を作るが、こうして燃えるごみを減らすと市の持ち出しの約3割の負担金が減る試算が出ている。また、し尿処理場に比べ、バイオマス施設の方が燃えるごみの量が減るし、非常に先進的な取り組みだという事で、今完成前だが、循環型社会の取り組みとエネルギーを使って、この2つによりこの事業を進めている。

エネルギーの地産地消の町づくりを進めているが、みやま市がこの事業をやった一つ大きかった点は、こういう事業をやろうとしている時が合併して7年目であり、また合併して三つの町が持ち寄りで行っていたので、みやま市としては新しい何か作り出して行かなければならないという事で、2014年3月、電力自由化の2年程前に、議会の合意を得て日本で最初の自治体による電力会社を作ってスムーズに事業の立ち上げが出来たというのが大きなポイントである。

電力会社を作るにあたり、先ず大規模 HEMS 情報基盤整備事業という国の実証事業を活用した。ヘムス（ホームエネルギーマネジメントシステム）と言って、一般の家庭で使う電気使用量の見える化をするという約30分単位で電気使用量がグラフで検索できるシステムがあり、これを2030年までには日本の全世帯にとりつけたいと国が積極的に進めている。これをいかに普及していくか、また特にみやま市は高齢化率が非常に高く、電気の使い方が分かるという事は高齢者の見守りに役立つだろうという事でこの実証事業に参加した。

家庭用太陽光余剰電力の買い取りサービスや高齢者見守りチェックサービスの実証をヘムスという機器を使って実証事業をし、現在も引き続きみやまエネルギー会社でこれらのサービスを提供している。

2013年3月に電力と自治体ならではのサービスにより、家庭からの電力買い取り、家庭

への電力供給を目的に会社を設立したのは日本で初めてあり、電力自由化された2016年4月、その段階で一般の家庭に供給した会社としては日本で初めて、自治体に関わる会社としては初めて、そういう事で地産地消の取り組みを、会社を通じて今進めている。

10haの土地にあるメガソーラー施設から、そして一般家庭からも2020世帯ほど電力を調達している。また太陽光は夜間分が無いので、その分については九州電力からの常時バックアップ制度を、そして卸電力取引所JPXを使い、そこから1割ほど調達をして24時間安定的に供給する体制をとっている。

高圧と言いつつ50kwだが、大きい建物の供給先については市の公共施設36か所と、お隣の築田市、バイオマス施設のある大木町、自治体連携をしている鹿児島市肝付町等の公共施設にも電力を供給しており、民間の施設も合わせて350か所ほど供給している。

低圧と言いつつ、一般家庭用の電力先になるが、約3,500口、約2,800件、約4万kwの契約がある。この電力事業には5千kwが必要と言われるが、みやま市は公共施設とJAさんの建物一つ二ついれると5千kwになる。電力事業では訪問販売が出来ないので、利用者をいかに増やしていくかというのが課題である。

出資構成と役割

みやま市が55%(約1,100万円)、筑邦銀行が5%、そして九州スマートコミュニティが出資している。尚、九州スマートコミュニティは、地元の電気工事店がヘムスという機械の取り付けや、対応等が非常に大変だという事で、モニター対応の会社を立ち上げたものである。

実は2000万円という資本金は、銀行も出資しているのでこの程度の資本金で住むが、銀行が出資しなければ、この10倍の2億円程の資本金が必要と言われている。運転資金源が非常に大事で、そういう意味では銀行が積極的に出資に加わったことは、事業を進めて行く上で非常に益が大きかった。

電力会社は社会的には地産地消をしながら、得た利益を最大限地元還元していくという形の貢献が非常に大事であるが、電力事業というのは目に見えないので、何かこう見える形での地域貢献も必要であるという事で、会社が運営している「さくらテラス」に市民の皆さんに出来るだけ来てもらい、しっかり市民に還元をしていく取り組みを進めている。

会社の運営

2期連続赤字で、やっと今期29年度黒字になるという状況である。ただ、さくらテラスの設備投資や事業がある程度いっきに膨らみ、まとめて人を雇ったという事で、想定よりかなり出金が多く、4期連続で約3000万円のマイナスで資本金を削り減らして債務超過の状況だが、3年以内に解消出来る見込みである。

電力だけではなく、市民に役に立つサービスを付加価値に

タブレットを活用した取り組みについては、電力使用見える化という取り組みで、どれぐらい使ったかをグラフ上で見るというのも当然だが、地域の商店も一つのウェブ上での商店街と見立てて「みやま横丁」という事で、インターネット上で買い物出来るような

サイトを作っており、電力引き落としとセットで、買い物をするときにはポイントが使えたりとか、便利な、使いやすい取り組みで、買った商品を届けるような取り組みもやっている。中々採算が出ない取り組みで、これは事業としてマイナスになっているが、電力事業でのプラスを市民に還元していくのが会社としての使命でもあり、そう言う意味で市民へのサービス提供に取り組んでいる。ただ、ご高齢者のタブレットでの買い物は中々難しいので、会社としてタブレット教室を3か月に1回、さくらテラスで開催をしたり、テラスに足を運んでもらいコミュニケーションを図る取り組み等をしており、定員の20名があつという間に埋まるぐらいの関心があり好評である。そう言う意味で、単に電気を売り買いするだけの会社ではなく市民との接点を持ちながら運営することもこの会社の特色という事で、生活総合支援サービスもセットして取り組んでいる。

小中学校への出前講座

エネルギー政策課の取り組みとしていう形で、みやま市におけるエネルギーの取り組み、バイオマス、循環型社会の取り組み等の話をしている。これは中学校の先生から、みやま市での取り組みを是非子ども達に聞かせて欲しいという事で始めたのがきっかけで、実は学校の先生もよく知らなかったということで、合わせて子どもたちも初めて聞くというものもあるが、それを含めて親御さんも聞かれるとか、そうしないといけないという事で非常に波及効果がある。

もう一つ、私たちがお話しして一番大事だと思ったのは、子どもたちは、みやま市の合併後に育った子供たちで、みやま市は何もない町だと思っており、実はみやま市が日本で初めてやったという事に対し自分の町に誇りを持てたということで、私たちが伝えていく事をしないとイケないと改めて強く感じた。その子供たちが、後5年も10年後に、自分の地域に帰って何かやりたいという事を一人でも思ってもらえれば、とても意味のあることである。子どもたちが都会に出て行き帰ってこない理由が三つある。一つは地域のことを伝える機会が無い。もう一つは地域の人と接する機会が無い。あと自分達の未来を変えれることを伝えていない。この三つが無いから子供たちは出て行ったら帰ってこないという事なので、帰って来ても地元で活躍できる場があるといことを子どもたちに少しでも教えてあげることが非常に大事である。これは選択肢を与えるきっかけになっていると思っている。

グッドデザイン賞

みやま市の取り組みについてはグッドデザイン賞として第三者からも評価を頂いている。グッドデザイン賞は、有形・無形を問わずあり、形のない物でも町づくりが一つのデザインとして優秀であれば受賞出来るという事で応募し、地域環境を整えながら、地域活性化をして行こうというのが一つのデザインであるとして受賞した。

自治体に関わる電力会社の取り組み

自治体に関わる電力会社の取り組みについては、約1,750自治体のうち、約120自治体が地域電力会社を創ったり検討たりしようという事で、すでに立ち上げたところを含める

と、今約 40 近くあり、約 1 割位はそういう地域電力会社を造るための検討に入っている。併せて総務省が、地域電力会社を 2020 年までには 100 ぐらいは是非作りたいという意向である。それから、よく言われるのが小さい自治体では中々立ちいかなかったり、太陽光だけしかなく再生可能を増やそうとしてもなかなか出来ないの、肝付町とか他の所はバイオマスや風力・水力があつたりするので、そういう所と連携しながら再生可能エネルギーを沢山使っていく取り組みも考えている。そういう事でも再生可能エネルギーを増やしていくという取り組みも自治体が自ら率先してやって行く一つのきっかけになっている。

自動運転サービス

国土交通省で道の駅等を拠点にした自動運転サービス実証事業があり、全国 13 か所で実証する予定だが、みやま市もその中の一つになっており、来月中旬に自動運転を一週間だが走らせる予定である。みやま市は太陽光しかないというのが一つ弱点ではあるが、反対に太陽光を蓄電池などにしっかり溜め、もしくは電気自動車に溜めて、うまく採算のとれる様な形で自動運転の車に使うという事を将来やれないかという事も含め検討している。

地域力を高める

一応地域力を高め行政課題に対応して行く力が必要であるが、地域力というのはやはり地域の強みを磨いていく事であり、やはり、そういう電力会社があるということと、太陽光の取り組みが進んでいるという地域の強みを生かし、次に何が出来るかというところが少子高齢化対策である。特に今後、買い物難民と言われる人が非常に増えていくと思われる。みやま市の高齢者は 70 代 80 代でも元気に運転しているが、あと 10 年後 15 年後どうかという所は行政課題としてあるので、地域の目的と資源と、そういう自動運転を含めた技術を組み合わせ、しっかり行政としての課題を解決していこうと、新たな取り組みを始めている。

所見

- ・ みやま市はソーラー発電をするための自然環境及び、電力に関し広い知識と先進的な考えを持った人材に恵まれていた。
- ・ 今後、地域電力会社は増加していくと思われる。当町も、自治体主導の地域電力会社設立が可能であればいいが、まずは家庭用太陽光発電の普及を図るとともに、農地等を利用した発電施設を増やすことも考え、エネルギーの地産地消の推進を進めるべきである。
- ・ HEMS は高齢者見守りチェックサービスに非常に役立ち、今後の利用が期待される。
- ・ 地域の強みは何かを考え、その強みを磨いていく事を念頭に当町の方向性を考え、小中学生に対しては、出前講座の実施や、地域の人と接する機会を増やすことにより、当町の歴史や取り組み、考え等、地域のことを伝え、自分たちの未来を変えられることを教えて行かなければならない。
- ・ 今後、高齢者の免許返上等による買い物難民が増えてくる事も考え、自動運転を含めた交通対策を考えて行くことも必要である。

調査研究等経費内訳

(会派名＝町民の会)

調査研究費 ・ 研修費 (いずれかを○で囲む)

| 交通機関名 | | 経路 | 計 算 | 計 | 備考 |
|-------------|-------|--------------|------------|----------|-------------|
| 交 通 費 | 日本航空 | 花巻～福岡往復&2泊 | 57,300円×3人 | 171,900円 | 整理番号 |
| | JR九州 | 博多駅～吉塚駅往復 | 320円×3人 | 960円 | 1-1 |
| | JR九州 | 博多駅～瀬高駅往復 | 2,220×3人 | 6,660円 | |
| | 福岡県庁 | 視察研修取扱料金 | 500円×3人 | 1,500円 | |
| | | | | 計 | 181,020円 |
| | タクシー | 福岡空港～デュークホテル | | 1,530円 | 整理番号 1-2 |
| | タクシー | 瀬高駅～みやま市市役所 | | 640円 | 整理番号 1-2 |
| | タクシー | みやま市市役所～瀬高駅 | | 640円 | 整理番号 1-2 |
| | タクシー | デュークホテル～福岡空港 | | 1,230円 | 整理番号 1-2 |
| | | | | | |
| 宿 泊 料 | 宿泊日 | 宿 泊 先 | 計 算 | 計 | 備考 |
| | 1月22日 | 航空券パック | | 円 | |
| | 1月23日 | 航空券パック | 0円×3人 | 円 | |
| | | | 円× 人 | 円 | |
| 資料代 | | | 円× 人 = | 円 | |
| | | | 円× 人 = | 円 | |

| | |
|-----|----------|
| 合 計 | 185,060円 |
|-----|----------|

(任意様式)

| | |
|----------------|--------|
| 項目区分 | 調査研究費 |
| 整理番号 | 番号 1-1 |
| 領収書その他の書類を添付する | |



領 収 証

町民の会 殿

No. 037345

平成 30年 1月 17日

181,020

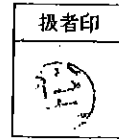
現金・振込・小切手

| 内 容 | 種 目 | 旅行年月日 | 行先(又は品名) | 内 訳 |
|-----|------|------------------|----------|---------------|
| | 旅行代金 | H30 1/22 1/24 | 福岡 | 矢中町議会会派合同視察研修 |

上記金額正に領収致しました。



〒020-0124 岩手県盛岡市厨川一丁目17-18
株式会社 岩手県北観光
代表取締役社長 三上金昭



※金額訂正又は扱者印なきものは無効

| | | |
|------------|------------|----------|
| 花巻～福岡往復&2泊 | 57,300円×3人 | 171,900円 |
| 博多駅～吉塚駅往復 | 320円×3人 | 960円 |
| 博多駅～瀬高駅往復 | 2,220×3人 | 6,660円 |
| 視察研修取扱料金 | 500円×3人 | 1,500円 |
| 計 | | 181,020円 |

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通機関の場合、利用区間が記入されているか。

支払年月日 平成 30年 1月17日

他会派との按分 (なし) ・ あり)

(按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載)

| | | |
|-----|---|-----------|
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 合 計 | 円 | 領収書の金額と一致 |

※ 1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

(任意様式)

| | |
|----------------|--------|
| 項目区分 | 調査研究費 |
| 整理番号 | 番号 1-2 |
| 領収書その他の書類を添付する | |

町民の会
領収書

2018年01月22日-011
 メーター運賃 ¥1,530円
合計 ¥1,530円
 現金支払 ¥1,530円
 車両番号 123
 毎度ご乗車ありがとうございます。

板付交通(株)

大野城市御笠川4-3-11
 ☎(092)504-0333

空港かきホテル

町民の会
領収書

2018年01月23日-005
 メーター運賃 ¥640円
合計 ¥640円
 現金支払 ¥640円
 車両番号 215

ご利用ありがとうございました。

ニコニコタクシー

☎0944(63)4141(瀬高)
 ☎0942(52)2134(筑後)
 ☎0943(23)0909(八女)

みどり市 瀬高駅
 市役所

町民の会
領収書

2018年01月23日-006
 メーター運賃 ¥640円
合計 ¥640円
 現金支払 ¥640円
 車両番号 513
 毎度ご乗車ありがとうございます。

瀬高交通自動車 有限会社

みやま市瀬高町下庄2313-18
 ☎(0944)63-5151

9人乗りジャンボタクシー
 車イス用ケアタクシーも
 どうぞご利用ください。

瀬高駅~みどり市
 市役所

町民の会
領収書

2018年01月24日-006
 メーター運賃 ¥1,230円
合計 ¥1,230円
 <<お支払内訳>>
 現金支払 ¥1,230円
 車両番号 890

毎度ご乗車ありがとうございます。
 お忘れ物、お問い合わせは下記まで
 福交運輸事業協同組合

(株)大和自動車

福岡市南区中尾1丁目25-1
 TEL 092-551-6111

お忘れ物注意!

みどり市 空港

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。(複数会派合同の場合は、)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通機関の場合、利用区間が記入されているか。

支払年月日 平成 30年 1月22日~24日

他会派との按分 (なし ・ あり)

(按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載)

| | | |
|-----|---|-----------|
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 会派名 | 円 | |
| 合計 | 円 | 領収書の金額と一致 |

※ 1枚につき、4支出項目分の領収書等を貼付